



原町CSだより

第3回学校運営協議会報告

開催日時 令和8年 7 月 14 日(火)

10:00~13:00

次第: 司会(委員長)

- 1 委員長・校長あいさつ
- 2 委員の皆様より(近況報告)
- 3 児童の様子について(i-check報告)
- 4 授業参観
- 5 熟議「自己肯定感を高めるために」
- 6 給食試食・情報交換
- 7 事務連絡 (次回の予定)

授業参観の感想

- ・教科担任制は、落ち着いた様子で担任ではない先生の授業を受けていてシステムにも慣れたように見えた。指導者にとってのメリットも理解できた。
- ・この暑さの中で、屋上の活動は1年生にとっては厳しいのではないかと。熱中症対策のためにも、事前に大人ができるだけ準備を進め、短時間の活動にした方がいい。
- ・屋上の木道は朽ちていて危ないので何とかしたい。木道を全部取り除いて、遊べるようにしたらいいのでは。
- ・ビオトープとして活用できるようになるといい。
- ・教科担任制は、写真を準備されるなどよい授業になっていた。
- ・英語の授業は羨ましい。自分たちに手伝えることは何かがあるか。



報告「i-check 総合質問調査」

6 月に実施した総合質問調査の結果を生活指導主任から報告しました。

- ・i-check は、児童の自己肯定感やソーシャルスキル、学級の人間関係などを可視化し、いじめや不登校の予防・早期発見に役立てられます。
- ・こんな調査をしているとは初めて知った。
- ・担任やクラスの状況が、調査結果に反映されていて、信ぴょう性があると思った。
- ・結果を見ると、学級ごとに特徴があり、教員の経験年数によっても違いがあることが分かった。



熟議「児童の自己肯定感を高めるために」

昨今の自殺率の傾向や自殺理由から、自殺を行動化をさせないためには、自己肯定感を高め、ゆるやかな「絆づくり」が必要です。小学生のうちに自己肯定感の土台を作り、さらに高める取組をすすめていきたい。現在の学校での取組(起業家教育・ライフスキル・いいとこさがし等)の他に、できることはないか熟議しました。

- ・自己肯定感は、安心・安全が一番大事だと感じる。
- ・挨拶を続けることが、「自分はここにいてもよい」という思いに繋がるのではないかと考えている。「君を見ているよ」のビームを送り続けている。挨拶を子どもにしてもらうことで、自分自身の自己肯定感も高まっていると感じる。
- ・先生が「すごいね」と褒めること、認めてあげることが大事だと思う。
- ・子どもと過ごす時間も関わっていると思う。各家庭が時間をつくっていく努力をしなければいけない。
- ・先輩パパママから色々引き継がれることがあったが、最近は同世代との繋がりが弱くなった。
- ・「見ているよ」ということを伝えていくことが大事だと思う。まずは家庭が一番大事だと思う。
- ・地域で育てるという取り組みがあるとよいのではないかと。昔は地域の人に叱られるということがあった。
- ・叱られることも「ちゃんと見ているよ」の一部なので、それも大事だと思う。
- ・大人のコミュニケーションが希薄化しているのではないかと。繋がりが弱くなってきている。繋がりを意識できるようにする取り組みが必要なのではないか。

次回開催は10月3日(土)です